

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム百万遍2階		
所在地	京都市左京区田中門前町103-27		
自己評価作成日	平成30年7月6日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ヒヤリハットの提出を義務化しており、重大事故がなく、事故予防に努めている。
利用者様の状態に差があるが、職員ペースにならない様、その方のペースにあわせるケアを心掛けている。
高野圏域認知症ネット立ち上げに伴い、他の事業所とも交流が図れており
認知症サポーター講座開催の代表として、今年グループホーム百万遍が中心となり
地域包括を始め、他の事業所とも連携し地域の取り組みを始めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「地域と共に その人らしく」と謳った独自の理念の基、地蔵盆には利用者とお供えをしたり、夏祭りに出店を出す事は利用者の毎年恒例の楽しみとなっています。また日々の中では思いを引き出せるよう関わり、家族にも付き添ってもらい居酒屋へ行った事もあり、個々の思いを大切にした個別支援に取り組んでいます。またホームの秋まつりの際や利用しているスーパーの従業員や地域の方に向けて寸劇を交えた認知症講座を行い理解が深まるよう取り組んでいます。食事作りでは一緒に調理する事を大切に、できる事に携わってもらい関われない方にも食卓の上で調理の音や香りを感じてもらえるよう配慮し、職員と共に和やかな雰囲気の中で食事を摂っています。また終末期については医療関係者と連携を図り家族の協力を得ながらホームとして対応できる支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和している。 事業所の理念を理解し、目標や課題を皆で話し合う場を持ち、目標や課題を共有する。	開設時に作られた独自の理念を継続し、事務所の中に掲示や毎月家族宛に出している便りにも掲載しています。理念は毎朝唱和すると共に研修時に理念について触れたり、入職時のオリエンテーションでは理念についても説明を受けています。日々の中で地域交流やその人らしさを考えたケアに努め、毎月のカンファレンスでは理念を念頭に利用者支援について検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全地域の保育所や幼稚園、新しい地域の幼稚園やスーパー、美容院の方や、地蔵盆等に参加させていただき地域のと交流を深めている	地域の地蔵盆のお供えや夏祭りには利用者と一緒に出店を出すことが恒例となっています。花祭りには毎年幼稚園児が花を届け歌などの遊戯の披露もあり利用者の楽しみとなっています。またホームの秋まつりには玄関先の掲示板で案内し、地域の方の参加も得ています。高校生のボランティアや和太鼓、新たにリコーダー演奏のボランティアの来訪もあり交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座の毎年の開催やグループホーム主体ではないが、依頼があれば認知症の対応について話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し細かく報告し、身体拘束に関する取組み等についても意見交換を盛んに行っている。	会議は利用者や民生委員、老人福祉委員、近隣地域の町内会長、地域包括支援センター職員などの参加の下開催しています。利用者の状況や行事、職員研修などの報告の後、意見交換をしています。身体拘束や認知症ネットワークの取り組みについて報告をしたり、市や地域の取り組みなどの情報をもらい行事への参加などに繋げています。また家族には来訪時などに声を掛け参加を得ることもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括との連携を密にとり、情報を得ている。	運営推進会議の議事録は直接窓口に届けています。市主催の地域ケア会議には出席していますが管理者交代間もないことから今後は相談しながら新たな協力関係作りに取り組む予定としています。研修案内が届いた際は内容により参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがある。事務所内に掲示し常に確認できる様にしている。毎月のカンファレンスでも話っており、運営推進会議でも議題にあげて報告している。	年に数回身体拘束に関する法人研修を受講した職員が伝達研修を行い、会議の中でも言葉による拘束等がないかを話し合い職員への周知に努めています。また身体拘束について具体的に書かれたマニュアルを事務所内に掲示し職員が何時でも確認できるようにしています。出入口やエレベーターはロックされておらず、出かける方には一緒に付き添ったり距離を置きながら見守っています。	

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修もあり、法人内で、虐待等についての聞き取り調査があり、その結果の改善策として身体チェックシートを用いて行っている。 あざ等を発見時には、不適合を上長に報告し原因追究、改善や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用しておられる利用者様もおられるので、肌で学ぶ機会が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に地域連携の職員や管理者、リーダーが細かく説明し、理解が得られていない部分に関しては納得いかれるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査の実施を行っている。面会に来られた際にもご指摘等があれば改善に向けて取り組んでいる。	利用者の希望は日々の中で聞き美容院への付き添いなど希望に添って対応しています。家族の意見は面会時や敬老会などの来訪時に利用者の様子を伝える中で聞いたり、法人による満足度調査も行われています。家族の意見を受けて歩行が長く維持できるように散歩や階段利用の機会を増やすなどの取り組みに繋がっています。また満足度調査の結果や取り組みについては家族に報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りの際に話せる機会を設けている。	職員の意見は月に1度のカンファレンスや申し送り、日々の業務の中での他、年に2回行われる個別面談も意見を出せる機会になっています。職員からはケアに関する意見が多く出されており、できることから実施しその後継続するかの再検討を行い、決まった内容については申し送りノートで共有しています。また意見の内容によっては法人に上げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、個人の実績によって給与水準を決められている。有休や希望休が取得しやすい職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや法人内での研修を全職員が受けている。		

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、高野地域圏域認知症ネットを立ち上げ、2ヶ月毎に地域包括を中心に、多職種の事業所とも交流しながら活動している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはご本人からの要望を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接の場にて要望を伺い、ケアプラン作成時にも要望を反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他業種(福祉用具等)との連携があり、必要としておられるサービスを提供する事ができる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気、環境であり、共に生活をしているというスタンスを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの些細な情報が有効であり、ケアの指針を示して下さるので、お便りや面会時にご本人の様子を伝え情報交換をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご家族様の面会は定期的であり、個別外出にて馴染みの場所に出かけるようにしている。	友人や親戚等の来訪時はリビングや居室でゆっくりできるよう配慮をしたり、定期的に訪れる友人と一緒に外出する方もいます。自宅が気掛かりな方に付き添ったり、個別外出の機会があり馴染みの百貨店や教会、懐かしいホテル等希望を聞きながら出掛けています。また家族と共に法事や墓参りに出掛ける方は出かけるまでの支度等を支援したり、手紙のやり取りをする方もおり一緒に郵便局への投函などの支援もしています。	

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に調理や洗濯物を畳んだりという家事を行ったり、散歩に行ったりと他の利用者様と関る機会を多く作っている。又、フロアーの交流ももっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった利用者様のご家族から相談があれば、いつでも連絡が取れる準備は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面接で嗜好や趣味等を伺っている。ご本人様からが困難な場合はご家族様から情報をいただいている。入居後はご本人様との会話の中からも希望を引き出せることもあり把握に努めている。	入居時に本人や家族から暮らしへの意向や生活歴、趣味等を聞いたり、利用していた事業所からも情報をもらい意向の把握に繋げています。入居後に利用者から聞いた意向や様子等は記録に残し共有すると共に日々の暮らしの中で反映しています。また利用者の思いを深く知るために月2回センター方式やパーソンドケアセンターについての勉強会を行い意向の把握に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方を観察し、記録に残しスタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様から話を聞き、主治医・訪問看護師、訪問マッサージ師等と連携し、その情報や意見等をふまえてケアプランを作成している。	介護計画は希望記入用紙を用いて本人や家族、医師や看護師から事前に希望や意見を聞き、アセスメントを行いカンファレンスの中で職員間で検討の上作成しています。変化のない場合は当初は3ヶ月、以降6ヶ月、1年の間隔で見直しを行い、其々の中間でモニタリングと評価を実施しています。また計画の実施状況については日々確認しており、モニタリングや評価に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中で変化を見つけた事、気付いた事を記録に残し、スタッフ間で共有している。 ご本人の希望をお聞きしたり、ご家族様と相談したりして、個別外出支援を行っている。		

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、随時確認し、要望に応えられる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の地蔵盆への参加や、地域の保育園での行事に参加し地域の方との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続も可能であると伝えており、継続的に受けておられるご利用者様の受診対応はご家族にお願いしているが、状態によってはスタッフも付き添いその方の情報を医師に伝えている。協力医の往診は月2回あり、24時間連絡が出来る体制を取っている。歯科医の往診もある。	かかりつけ医を継続している方や専門医へ受診が必要になった場合は利用者の状況を書面や口頭で伝えて家族の付き添いが基本ですが状況により職員が同行しています。24時間連絡が取れる協力医は月2回の往診があり、急な体調不良時は其々の医師に連絡し指示を仰ぎ対応しています。また必要や希望に応じて訪問歯科や訪問マッサージ、皮膚科の往診を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が健康管理に来られているのでその時に報告や相談を行っている。緊急時は電話にて連絡、相談をすることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟スタッフに状態を伝え、病院の相談員とも連携を図り、情報交換をしている。病状や退院の連絡を細やかに受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する指針の説明を行っている。ご利用者様のADLが落ちた場合は主治医、訪問看護師、ご家族様との話し合いの場を設けている。	看取りに関する指針を基に対応できることやできないことの説明を行い、利用者が重度化した場合には家族や医師、訪問看護師、職員の四者で話し合い家族の意向を再確認し方針を決めています。看取りを支援する場合は看護師による研修の実施や24時間対応可能な医師への変更などの体制を整え、家族は面会を増やしたり泊まりなどの協力を得ながらホームとしてできる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、普通救命講習を受講している。		

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、消防訓練を実施している。その内、1回は夜間想定。その他、毎月、事業所独自で消防訓練を行っている。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜を想定し併設施設合同で実施している訓練では通報や利用者と共に避難誘導などを行っています。また年4回ホーム独自でも利用者と共に階段を使用した避難訓練などを繰り返し行い、備蓄については日常の食材や缶詰などを多めに準備しています。	運営推進会議で訓練の報告を行っていますが議題に上げて話し合ったり、訓練の開催を地域の方に知らるなど、地域の方と協力関係が築けるよう取り組まれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを損ねることのない様に接している。又、利用者の意思を尊重できる選択肢を提供している。利用者様にたいする言葉遣いには、特に注意をしている。	法人による接遇マナーに関する研修を受講しホームで伝達を行い、毎月のカンファレンスでもマナーの向上や身だしなみ等について話し合っています。呼称は苗字を基本に、言葉掛けについては堅苦しくならず一人ひとりに合わせてその場の雰囲気なども加味し節度ある対応に努めています。希望がある場合は同性介助を行い、馴れ合いなどが見られた場合は職員間で注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じてご本人の思いがわかる様に関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思確認を怠らない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院を利用しており、好きなオシャレが楽しめる様に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と一緒に確認し献立を考え、ご利用者様、職員が一体となって食事作りをしている。	朝食はご飯とパンの希望を聞き、日々の献立は利用者に聞きながら季節感を取り入れて決め、足りない食材は一緒に買いに行っています。できる事に積極的に関わってもらい関われない方にもテーブルの上で調理の雰囲気や香りを感じられるよう配慮し、職員と共に談笑しながら食事を摂っています。また寿司の出前やレストランなどへの外食、水無月やクッキーなどのおやつ作りも楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分がなかなか自ら積極的に摂取できない方は、水分チェック表を利用し職員間で共有、こまめに促し実践できている。		

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自身でしていただき、磨き残しなど仕上げは職員がお手伝いさせていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の今在る状態をしっかりと把握し職員間でもしっかりと話し合い、その方が一番心地よく生活できるよう支援している。	排泄記録や排泄のサインを見ながら個々のリズムでトイレに行けるよう支援し、おむつ使用の方も職員体制のある時はトイレで排泄ができるよう支援をしています。カンファレンスや日々の中で排泄用品や支援方法を検討したり、時には業者のアドバイスも参考にし入居後に布の下着に改善した方やおむつで退院となった場合にも早期に入院前の状況に戻れるよう支援するなど自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、睡眠は勿論、体操や散歩などで身体を動かし、出来るだけ下剤に頼らないよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴のお好きな利用者様には出来る限り毎日入っていただき、気分良く過ごしていただいている。	入浴は週に2～3回を目安に主に午後から支援し、希望により毎日入浴する方や夜間を希望の方にはできる限り遅い時間に入れるようにしています。柚子や菖蒲などの季節湯や入浴剤を選んでもらったり、シャンプーハットや好みの洗顔石鹸などを使用し、職員とマンツーマンで会話を楽しみリラックスできるように配慮をしています。入浴を断る方には時間をずらしたり職員の交代や次の日にするなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣、睡眠習慣にそって、夜間帯にも水分摂取や傾聴などしながら安眠、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、薬の内容等がわかるようにしている。又、連絡ノートや申し送りの変更等を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・掃除・洗濯等個人の得意分野を生かせるように支援している。散歩・レク・買い物等のお誘いし気分転換にも努めている。		

洛和グループホーム百万遍2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、且つ利用者様の体調の良い日には散歩等の声かけを行い、外出を促している。 希望があれば買い物の支援も行っている。	天候の良い日は散歩や買い物、近隣大学へ馬術部の見学などに行ったり、洗濯物干しなどは日常的に一緒に行っています。年間を通して初詣や桜の花見、動物園や水族館、道の駅へのドライブやイルミネーション見学など、外出行事によっては家族にも声をかけ一緒に出掛けることもあります。また個別外出の機会もあり、百貨店や教会、喫茶店など希望に添って出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より小口現金をお預かりし厳重に保管している。買い物の希望があればご家族様に許可を得て一緒に買い物に行っている。ご自分で財布をお持ちの方は使われた金額を職員が把握し、記録に残しご家族様にも伝える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族様やご友人に連絡を取って頂けるようにお電話をお貸ししている。携帯電話をお持ちの方には使い方も支援している。又、季節のお手紙等も出して頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快な思いをされないように清掃に努めている。壁飾りや生花を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。アンケートを実施し、特に臭いに関しては、すでに改善を行っている。	共用空間は花を欠かさないよう利用者と一緒に買いに行ったり、散歩時に摘んだ野花を活け、大文字のちぎり絵やお月見などの作品を作って飾り、季節感のある空間作りをしています。また種類の違う椅子やソファを多く置き、好みの場所を選び過ごせるよう配慮をしています。換気や湿度の管理、室温については利用者の声も聴きながら過ごしやすいよう調整したり、手摺りの消毒なども含めて日々丁寧に掃除を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く配置し皆様が話し易く関わり易い環境が整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、家族の写真や人形等持って来られている。	入居時に馴染みの物などを持ってきてもらうよう伝えてあります。使用していた筆筒や椅子などの家具や寝具の他、大切な家族の写真や自身で描いた絵、押し花などの作品を飾ったり、裁縫や編み物の道具、本などの趣味の物も自由に持参してもらいその人らしく過ごせるよう居室づくりを支援しています。また日々の掃除は関われる方と一緒に清らかな環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて、環境整備に努めている。良く使われる物は決まった場所に置き、自由に使用してもらっている。又、目線に物が入るように配慮している。		